

第3回住民会議意見概要（総務部会）

日時：平成28年7月11日（月）19：10～21：10

場所：役場3階 庁議室

■基本計画案に関する意見

まちづくり目標1：みんなで考え、みんなで創るわくわくするまち

- ・アパートに住んでいた時は広報誌が配布されていたが、戸建て住宅に引っ越した際には、地域の方から自治会に加入すると広報誌が配布されるようになるとの話があった。また、近くの外県から来た方は、広報誌の配布を断ったという話も聞いた。広報誌の配布については、どのようになっているのか。
- ⇒広報誌は、自治会への加入・未加入に関係なく配布することが基本だが、地域によって配布方法が異なる状況もある（例えば、自治会費を徴収する際に、広報誌を配布するなど）。
- ・自治会によっては、転入者が入りやすいところと、入りにくいところなど各自治会によって状況が異なるので、自治会加入を促進する取り組み方法も各自治会の状況に合わせた取り組みが必要だと思う。
- ・東京の足立区では、転入の手続きをする際に携帯端末に登録すると、行政情報が配信されるという取り組みを行っている。
- ・広報誌や行政情報を配布して、町民の方が見るか見ないか分からないような情報提供のやり方を変えなければならない時期にあるのかと感じる。見てもらえるような情報提供のあり方などを検討する必要があると思う。
- ・生まれも育ちも南風原という人でも、子どものPTA活動には積極的だが、地域活動（地域行事前の清掃活動など）には声を直接かけても参加しない状況がある。そのような人達に対して、どのようにアプローチをしていけば良いのかが悩みである。
- ・自治会の現状として、地域活動が停滞していく背景は、予算が少ないということではなく、マンパワーの不足というのが一番の課題である。
- ・自治会加入率は、H27年度の調査でも53%という結果がでており、5年前に比べても人口は増えているが、自治会加入率は維持している状況にある。
- ・行政としても、自治会の広報活動（津嘉山体協の選手募集のチラシなど）への支援は行っている。

まちづくり目標5：みどりとまちが調和した安全・安心のまち

1. 安全・安心に暮らせるまちづくり

- ・今住んでいるところの、隣近所はお年寄りの方が多いため、災害発生時に幼い子どもを連れて避難することで精一杯である。このような状況の場合は、隣近所として何をすべきなのか。
- ⇒地域としての対応の1つが、自主防災組織の設立になる。また、行政としては地域に一人で避難するのが難しい方の人数は把握しているので、避難が難しい方と避難を支援できる方のマッチングを行うのが課題となっていると思う。また、このような話について情報共有を図ることが、地域での防災体制の構築に向けて重要である。
- ・昔から住んでいる人は、以前に冠水した場所や、どのくらいの雨が降ると河川が増水してくるなどの情報をもっているため、その辺の情報共有を図ることも重要である（転入してきた人は分からない）。
- ・沖縄で海に面していない町として、災害時における広域的な役割も大きくなると思う。
- ・施策展開で、防災と防犯を分けて整理したということであったが、3つめの項目についても防災の話になっており、違いが分かりづらいので、(1)と(2)については、防災と防犯のハード的な話として整理して、3つ目の項目は、自主防災組織や防犯に関する組織の連携などのソフト面の話にすると、分かりやすくなると思う。⇒47ページ
- ⇒(3) 災害に強いまちづくりの意図としては、まちづくりの面からのアプローチすることも必要ではないかということで、このような整理をしている。
- ・地域において、防災や防犯活動に関わる人や団体は基本的に同じになると思う。防災だけ、防犯だけというものではなく、普段から活動できるような組織体制や活動内容が重要になると思う。
- ⇒確かに、そのような面もあると思うが、そのような活動に関わる方が固定されてしまうと、負担が大きくなってしまい、活動が長続きしない場合もあるので、新たなリーダーになるような人材を見つけることも必要になると思う。
- ・防災などで人を集めるには、何かのイベントと絡めた取り組みを行うことが必要だと思う。例えば、備蓄している食料が期限切れになる際に炊出し訓練や地域でこれら材料を活用したイベントをやるなど、工夫が必要だと思う。

まちづくり目標6：環境と共生する美しく住みよいまち

- ・南風原町の空き家の状況はどのようになっているのか。数が多いようであれば、ごみの不法投棄の場所になったりする可能性もあるので、対策が必要だと思う。
- ⇒現状では、空き家の数は少ないが、今後増えてくることも考えられる。
- ・河川における事故の発生状況はどのようになっているか。河川については、大雨の際の安全面への配慮などが重要になると思う。

⇒川で子どもがおぼれ、近隣の事業所の方が気づき、心肺蘇生をして一命を取り留めたことが過去にあった（大雨時に子どもが排水路での死亡事故もあり）。

⇒南風原町においては、河川がまちづくりをする中で貴重な資源であると考えており、町民の方が河川に親しむ環境づくりが重要だと考えている。

行財政計画

- ・ 次回に議論予定

第3回住民会議意見概要（民生部会）

日時：平成28年7月11日（月）19：10～21：10

場所：3階庁議室

■基本計画案に関する意見

まちづくり目標3 とともにちむぐくのでつくる福祉と健康のまち

1. 健康づくりの推進

・実際どこまで本気で取り組むのか。そう考えるとひねりが必要ではないか。

（1）生活習慣病の発症予防

・歩道に歩きたくなる陸上競技場のトラックや一里塚を設けるなど、運動習慣をつけるために、楽しく歩かせる工夫なども必要では。

（2）生活習慣病の重症化予防

・健診結果を分かりやすく示す。本気で重症化予防を進めるのであれば、電光掲示板や広報などを活用して、徹底的に周知を図る。

2. 子育て支援の充実

（1）待機児童の解消

・ショッピングセンターや空き家の活用、商業施設との連携なども検討できないか。
・保育士の確保のために給与をあげて確保することも必要では。

（2）各種保育サービスの充実【主管課：こども課、関係課：〇〇課】

（3）安心して子どもを産み育てるための支援の充実

3.障がい者サービスの充実

- ・いろいろな障がい者がいる。一人ひとりのニーズを把握することが必要。その方が予算を有効に使える。
- ・現場、当事者へのヒアリングが足りないと思う。本当に望んでいるものを把握する。
⇒3ページ
- ・ゼロベースで考えてもいいのでは。そして障がい者が困っていることを広く知ってもらうことも必要。

(2) 障がい者の自立を支えるサービスの充実

4.高齢者サービスの充実

(2) 高齢者の自立を支えるサービスの充実

- ・老人クラブだけでなく、趣味でのつながりも大事ではないか。例えば、年齢層も幅広く交流できるような。⇒24ページ
- ・高齢者サービスとしてでなくても、交流はできるのではないか。
- ・認知症は介護者がとても大変。孤立させないことが大事。

5.社会的孤立の防止対策の推進

- ・両親と子ども、両親が協力をして子育てするというようなステレオタイプな家庭から外れた状況が孤立につながるのではないか。
- ・孤立させない。見守る大人がいる環境づくり。
- ・貧困は、子ども自身があきらめてしまう。夢をみられない。やればできるという可能性、きっかけとなるような人を呼んで講演会をするなど、行政が機会をつくることも必要。

6.ちむぐくで支えあう安心して暮らせるまち

- ・大阪の西成三角公園でホームレスの人に話を聞いたことがあるが、相談できない人たちだった。
- ・どう支えてもらっていいか多くの方は分からない。悩みに関するQ&Aのようなもので、悩みや困りごとの声をあげやすい環境づくりが必要。⇒29ページ
- ・同じ悩みを抱えている人がほかにもいると感じたときに、人はホッとする。
- ・南風原はこれからも人口が増加することが見込まれる。人間関係が希薄になれば、声をあげることができなくなる。
- ・相手が声をあげやすい状況をつくっていくことも大事。自治会は広報を配っており、そう

- すると年に12回は会話をし、つながりをつくるきっかけになる。
- ・例えば自殺対策のためのゲートキーパー。ゲートキーパーを配置することが目的ではなく、ゲートキーパーの活動（気づき、声かけ、つなげるなど）を地域に広げていくこと。地域で登校時の子どもたちへの声かけなど、自分たちがやれることを実行することで緩やかなコミュニティづくりができる。
 - ・雪国では、雪が解けた人が仕事を始める春先に自殺者が増えるという。家に残される高齢者が孤独を感じて自殺すると言われている。孤立させない地域づくりが必要。役場も職員の笑顔にあふれ、訪れた人がホッとする場になれば。
 - ・操体教室を行っているが、とても良い取り組みだと思う。必ずしも新しく何かを始めてるのではなく、今ある取り組みを徹底的に周知していくことも大事。
-
- ・予算を有効に活用する。健康づくりや介護予防によって高齢者の医療や介護を抑えることで子どもたちへ予算を振り分けることもできるのではないか。
 - ・ボランティアで視覚障がい者向けの広報の録音を行っている。年に2回は餅つきやBBQなど交流会を持っている。つながりができる機会となっている。⇒30ページ
 - ・議会だよりの町民の声は活用されているのか。アンケートなどを改めて実施しなくても、このような声を反映、活用することを考えないともったいない。⇒3ページ
-
- ・民生部会の分野は、一長一短がある。各分野に着目し、深堀していくことができる。ただ深堀すると、そこしか見えなくなって、同じようなことをしていても隣が見えなくなる。制度をみて、子ども（対象者）をみていない、地域をみていない。重複する部分が多いことも民生部会の特徴。
 - ・逆にシンプルに「安心して暮らせるまちとなる」こと考えると、地域から孤立する人は出てこないだろうと思う。地域の孤立といった場合、今は子どもが中心に取り上げられるが、そうすると若者が取り残されることもある。高齢者が孤立する背景もこれまで何も手立てがないまま今に至っている。対象を分けることなく全体をイメージできることが必要ではないかと思う。⇒29ページ
 - ・柱（健康から高齢者福祉まで）ごとに手立てはある。ただ障がい者福祉と子育て支援、そして教育が重なるなど、柱にこだわりすぎず、それぞれが交わっているという視点がとても大事。健康、子育て、障がい者、高齢者と個々で考え動いていると無駄も生じる。
 - ・社会的に孤立しているのは、制度の狭間、隙間の人たち。大項目として「ちむぐくるで支えあう安心して暮らせるまち」がスタートとしてあり、次に健康づくりから高齢者福祉までの個々の取り組みがあり、そこにはまらないものが「社会的孤立の防止」という順番は良いのかもしれない。⇒16～30ページ（柱の順序）
 - ・社会的孤立の防止対策においては、今後10年の社会変化に応じて、柔軟な取り組みができる内容となればよい。

- ・関係機関同士がお互いを知っておくことが大事だと思っている。最近学童の関係者と民生委員の顔合わせを行った。お互いがお互いのことが知らなかった。これからは、これらのつながりが必要だと思っており、これからは保育所等とも連携していきたい。
- ・関係者同士のつながりを通じて、全ての人がコーディネーターになれば素晴らしい。
- ・自治会では福祉協力員（社協会長から委嘱）が活動している。
- ・現状と課題があり、解決方法として施策があると思う。民生部会での一番の課題は、生きるか死ぬかぎりぎりに関わるもの。ただ、これを個人に抱え込ませなければ、これまで積み上げたきた解決策、専門職等が存在している。これらの専門家やプロが思い切り活動できるようにすれば、解決は近いのではないか。
- ・横つながりを太くする。予算については、節約して予算をつくる部分と新たにお金（ネーミングライツなど役場の資産を活用する）をつくる部分がある。金がないから出来ないではなくて、やるべきことを実施するために予算確保を考え欲しい。
- ・当事者を発見できるシステムと発見した人がそこに関わるシステムはできている。ただ貧困対策でみていくと、プラスアルファの伸びしろを広げるシステムがない。そこを地域で展開させるために内閣府が動いている。
- ・実際には地域の既存システムが担える部分があれば、そこに担ってもらった方が早い。たとえばスミシで経済的に厳しい子と集団に馴染めない子がいた場合、集団に馴染むことができるようになった子は学童でみてもらった方がよい。
- ・中心となる人がいない。ただネットワーク等の中心になる人が一番大変で、かつ一番お金が落ちない。
- ・知ること、出会うこと、把握することが今後必要になる。

第3回住民会議意見概要（教育部会）

日時：平成 28 年 7 月 12 日（火）19：25～21：15

場所：5 階 執行部控室

■基本計画案に関する意見

- ・住民会議で議論している内容のゴールはどこにあるのか。
- ・住民会議はもっと多くの人から意見が聞けると良い。ただ「会議」というと一般の住民にとってハードルが高い。もっと気軽な「ゆんたく会」のような雰囲気にして人を集めれば、いくらでも意見がでると思う。⇒3ページ
- ・幸福を感じる人の割合が世界の中で日本は低い。南風原町の住民の幸福度をどのように上げていくのが重要。幸福度を高めていくために教育はどうあるべきかなど、テーマを決めて議論を深めながら実践に移っていくことは難しいか。
- ・住民会議の各部会、社会福祉協議会が一緒になってモデル的に地域のつながりづくりにつながるイベント等を実施して、成功すれば他の地域に広げていくような取り組み。⇒7ページ
- ・小学生、中学生に対して幸福度の調査をして、指標として活用してはどうか。
- ・南風原町の公園は週末には、利用者が多くなり周辺道路への違法駐車がひどい。

まちづくり目標 2 きらきと輝く人が育つまち

- ・貧困世帯を含めた全てのこどもたちの居場所が必要。それをどうやって作っていくか。学童クラブでは今それを進めていこうとしている。
- ・学童クラブでは異年齢での遊び、その中で年齢の上の子が下の子へのケアをするという経験が人間性と自立に向かう方向性をつくりあげる。ネットワークを含め異年齢が集まれる場をどう作っていくか。
- ・南風原町で住民の力を借りて、自由に遊ぶことができるプレーパークが作れないか。プレーパークには貧困の子どもや非行の子どもが集まってくる。そこをこどもたちの屋外の居場所にしていけないか。高津嘉山公園をプレーパークにできないか。
- ・こどもが遊ぶ環境が少ない。
- ・自治会の加入が伸びないのは、小さい頃から地域と交流する機会がないことが関係していると思う。兼城はこども会がない。こども会があれば、成長して青年会、自治会へのつながりができてくる。小さい頃から地域とつながり行動する環境が必要。

- ・住民会議は、5～10年という期間における様々なテーマを取り上げ、議論している。住民会議の役割は、これまで議論してきた内容を住民会議に参加しているメンバーと行政が連携し、実践していくことにもあると思う。⇒7ページ
- ・地域力が落ちている。子どもも大人もひとりぼっちが増え続けている。地域力、つながりをつくるため、楽しみながら集まれる場所が必要。⇒30ページ
- ・貧困世帯のこどもが学ぶことができる環境、夜の居場所があったらよい。
- ・中学生や高校生が集まることができる健全な居場所が必要。

1.安らぎと豊かな人間関係、生きる力を育む、家庭教育

(2) 家庭教育を考える機会の充実

- ・学校公開日での講演会、PTAで講演会等を行っても集まるメンバーは決まっている。日にちをどう設定するか。保護者の意識をどう変えていくのが課題。

2.地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

(2) 国際交流の推進

- ・大使館と連携した国勢交流は、現在行っているハワイやカナダとの交流と違うのか。

(4) 文化・伝統・芸能等の保全・継承、活用

- ・学童クラブとして、平和学習、文化センターと連携していきたい。

3.個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

(1) 豊かな心と健やかな体を育む学習内容の充実

- ・インクルーシブ教育は、ノーマライゼーションとして障がい児を分け隔てなくということだと思うが、学童など放課後の障がい児の受け入れを考えていく必要がある。現在は障がい児は放課後デイサービスを利用している。
- ・デイサービスができたことは前進ではある。ただ保護者がほかの子どもたちと同じ環境を望んでも学童で受け入れる場合の行政の支援(障がい児を受け入れた際の補助)は十分とはいえない。
- ・特別支援学校には、いろいろな地域の子どもが通っている。放課後は各地域の学童等で受け入れられないかという内容の要請を県へ行ったが実現しなかった。
- ・住民会議では、話し合った内容をもとに、状況をどう変えていけるのかが問われている部分もあると思う。
- ・こども達の毎日の宿題は多い。学童クラブでは、こどもが宿題をやることも期待してしまう。

- ・勉強をひとりで頑張ることで、こどもが孤独になってしまうこともある。
- ・学習支援員、ボランティアはどのような体制になっているのか。先生一人では、とてもこども全体をみるのは難しいのではないか。

(3) 地域と育む特色ある学校づくり

- ・南風原小学校で学童町連協と一緒に親子での昔遊び教室を実施した。80組ほど参加があった。親もこどもも夢中になっていた。
- ・文化教養委員は、行政からの予算があり年5回講座を開かないといけない。年間の実施回数と参加目標人数が設けられていることと、予算を使い切らないといけないことが実施する側の悩み。回数をこなすだけで大変。通常は参加が10名前後のことも多い。
- ・南星中学校では創立30周年に向けて学校を中心に地域が交流できるイベントを検討している。

第3回住民会議意見概要（経済建設部会）

日時：平成28年7月12日（火）19：10～21：15

場所：役場5階 執行部控室

■基本計画案に関する意見

まちづくり目標4：工夫と連携で産業が躍動するまち

(1) 南風原産品を創り伸ばす農業の振興

- ・新規就農者の方への取り組みよりも、現在、頑張っている人への支援を手厚くする方が良いと思う。
- ⇒どちらの取り組みも必要であると考えており、現在頑張っている方については、「農業基盤の強化」「農業経営の強化」などの中で支援していくことを考えている。
- ・かぼちゃをPRしていきたいという話を商工会の仲間としていて、その方法としてハロウィンパーティーをしたいと考えているので、PR活動が施策に位置付けられると開催に向けて行政の協力も得られやすいのかと考えている。
- ・ナーベラーも全国の方が食べるものというイメージをもつようにPRすることも良いと思う。
- ・六次産業化に向けて、南風原に集積している、印刷・広告関係の事業所と連携してPR活動を展開していくことも重要である。例えば、ユーチューブでナーベラーをPRする面白い動画をアップするなど良い。
- ・農地の多面的な活用について、「ひまわり畑」の取り組みが資源になりつつあるが、これを観光資源にするためには、駐車場の問題など様々なことを検討し整備していかなければならない。

(2) 賑わい・就労を創る商業、製造業、新規産業の振興

- ・商工会の事務局に、町内に空いている土地の確認や人材募集に関する相談が寄せられている状況があるので、町内の空いている土地の情報収集・提供、中央公民館などを使っての人材募集のイベントをしたいと考えているので、行政と連携してできればと思う。
- ・印刷業の知り合いの中でも町内に土地がないので、他市町村に出ていくという話も聞いたりするので、土地と人材の問題は早急に取り組むべきものだと思う。土地については、必ず大きな土地だけではなく、規模的に小さなものでも求めている人はいるので、その辺の情報が欲しい。⇒37ページ
- ⇒人材の話は、「雇用サポートセンター」が今年の3月に設立されているが、まだ周知が出来ていない状況にあると思うので、商工会とも連携した取り組みが必要だと思う。
- ・南風原町の交通の利便性の良さをもっとアピールして、産業を誘致することも必要だ

と思う。

(3) 地域の連携で創るレクリエーション・観光の振興

- ・観光協会の人員体制の強化が必要な状況にあると思う。事務員の方が一人でいくつも業務を抱えており、イベント時の会員への情報提供や協力依頼などが回らなくなっている状況にある。⇒41 ページ
- ・南風原町の観光を振興していく上で、単に県外や海外の観光客を誘致しようということではなく、県内の人を呼び込むようなところに力を入れることも必要だと思う。それが、ひいては県外や海外の方の誘致にもつながるのではないかと。
- ・県内の人を呼び込むには、那覇市の識名にあるヤギを飼っている公園のような「ミニミニ動物園」や「食のテーマパーク」などをつくり、南風原に行くと楽しいというイメージをつくり上げることも大事だと思う。

(4) 歴史と伝統を誇る工芸産業の振興

- ・町民が購入しやすい商品展開をした方がよい。町民の人の利用が増えると、それがPRにつながると思う。例えば、かりゆしウェアの胸ポケットのワンポイントや襟元のワンポイントの価格とスタンダードなデザインが表示されているカタログなどがあれば、お願いしやすい。
- ・かすりの町民割引があるとよい。
- ・伝統工芸産業を支援していくにも、組合や行政がどこまで本気で取り組むのかというのが重要だと思う。いくら伝統工芸だといっても、モノが売れないと続かないと思うので、その辺の本気度が問われていると思う。

まちづくり目標5：みどりとまちが調和した安全・安心のまち

(2) 快適で文化的に暮らせるまち

- ・河川のピーク時の容量オーバーについてですが、大雨の際には、容量オーバーはしていないものの、川に降りられるように整備されている階段まで水が来るので（イエローハットの裏手）、子どもには、近づかないように注意している。⇒50ページ
- ⇒以前は、道路が冠水したこともあったが、県の事業で整備をしてからは良くなっていると思う。
- ・景観の面で、南風原ダムから 21 世紀橋を見るポイントは良いと思う。また、河川や南風原ダムなどを活用して、糸満の親水公園のようなものが出来ると良い。
 - ・南風原は特に街路樹が少ない印象があるので、その辺は力を入れると良い。

(3) 利便性のよい魅力あるまちづくり

- ・千葉で自動運転の無人バスが実証実験を経て運行するという話があるが、南風原においても、環境を絡めた実証実験を行うところとして、手を挙げてみるのも良いのではないか。例えば、かすりロードを自動運転バスが通るなど。
- ・道路や公共交通について、調査・研究をしていく上で、民間事業者との連携することも重要だと思う。また、調査する上で期間を設けて調査委員を公募するなどの取り組みがあっても良いと思う（本当にLRTは成り立つのかなども含めて）。
- ・道路環境の利便性や空間としての充実なども重要であるが、交通事故の多発する場所（右折レーンはあるが、信号の矢印が出ない所など）というのは、ある程度決まっているので、その辺の対策ということも施策の中に整理しておく必要があると思う（スピードが落ちるようなペイントや標識の設置など）。⇒53ページ